がいをとするののに

（）

　このは、をとするののに（。「」という。）にするについて、をとするののに（28。「」という。）にもののほか、がにするためになをものとする。

（）

　になののにのは、にとする。

２　、「」としているは、それをしないであっても、にとされることはないが、（45）のなのを、できるだけことがことをする。

３　にには、のがされた、するに、のをにようすることを。

（）

　が、がいになをし、は、ながないにものをした、そのによっては、のにし、はをにし、にことがある。

（の）

　によるがいをとするにがいそののからのににするため、のに、のとおりを。

２　をは、、、にするとともに、のほか、、、に、がいがとをにとなるなをなでしてするものとする。

３　のには、がいにし、のにしつつでを、のにおいてすることとする。

４　のは、に、をようものとする。

（・）

５　がいをとするののをるため、にし、やをとするののにする（５３14。）のや、がいからをくをけるなどな・をものとする。

２　にとなったには、がいをとするのになについてさせるために、また、にとなったには、がいをとするのにについてさせるために、それぞれ、をする。

３　ののうち、にことは、が。

４　に、がいのをさせるとともに、やにもしつつがいへにするためになのにより、のをる。

　このは、28からする。

　このは、29４１からする。

　このは、２４１からする。

　このは、３１１１からする。

　このは、４４１からする。

このは、６○○からする。

がいをとするののにに

　なのな

は、がいに、ななく、がいをとして、・やのをするはに・などをする、がいでないにはをことなどにより、がいのをすることをしている。なお、、そのののやのいのをするためののをとしてわれるないも、がいをとするないにする。

また、がいののをし、はするためになのは、なではない。したがって、がいをがいでないとする（いわゆる）、にされたがいにするのによるがいでないとのや、をするためになで、にしつつがいにがいのをすることは、なには。

このように、なとは、ななく、がいを、となるはについて、にするががいでないよりにことであるにするがある。

　なのの

　なにするのは、がいに、がいをとして、・やのをするなどのがになのにものであり、そのにとである。においては、なにするかかについて、なをせずになをするなどしてのをなうことなく、のごとに、がい、の（：の、の、の）のはの・・ののに、やに・にすることがである。

　は、ながあるとしたには、がいにそのをにするものとし、をようことが。その、とがいのが、おいにのをしながらをることがめられる。

３　ないの

　ながなく、ないにするとえられるびながあるため、ないにしないとえられるはのとおりである。なお、されているはあくまでもであり、これらのだけにられるものではないこと、なにするかかについては、のごとに、のをまえてすることがであること、ながありないにしないであっても、のをめられるにはのがであることにする。

（ながなく、ないにするとえられる）

* がいがあることをとして、にをする。
* がいがあることをとして、にのをしにする。
* がいがあることをとして、にの、の、のをんだり、にするなをいたりする。
* がいがあることをとして、に、へのをむ。
* ・の、にではないにもかかわらず、がいをに、やのにのをめるなどのをけたり、にがないにもかかわらず、がいをにのをむ。
* がいのや、のにおけるやのなどについてすることなく、としたのをにをする。
* のにがないにもかかわらず、がいでないとはなるでのをう。
* がいがあることをとして、がいにして、いやのなどにのをげる。

（ながあるため、ないにしないとえられる）

* をうにおいて、になのなのがまれるがいのあるがいにし、とはのをする。（がいのの）
* のがきのをしたに、をく、をするためのをう。（ののの）
* をうため、がいにしたがしようとしたに、なで、にしつつ、がいにしがいのやののをする。（がいののの）

４　のなえ

１　のにする（「」という。）２において、「」は、「がのとのをとしててのびをし、はすることをするためのかつなびであって、のにおいてとされるものであり、かつ、をしたはのをさないもの」とされている。

は、におけるのをまえ、にし、そのはをうにたり、のにおいて、がいからにのをとしているののがあったにおいて、そのにうがでないときは、がいのをすることとならないよう、ののについて、をうことをめている。は、がいがけるは、がいのみにするものではなく、におけるなとすることによってずるものとのいわゆる「」のえをまえたものであり、がいのをすることとならないよう、がいがのにおいてとしているをするためのかつなであり、そのにうがでないものである。

２　は、のはの・・にらし、とされるでのにするものにられること、がいでないとのにおいてののをけるためのものであること、はの・・のなにはばないことにするがある。そのにたってはこれらのにしたで、がいがにかれているをまえ、ののためのびについて、がいのをしつつ「５　なのなえ」にげるをし、のもめ、のによるをじて、かつなで、にがなされるがある。にたっては、がいにとってのをするためのかつなをがいとがにえていくために、がおいののにめることがである。えば、がいがののためにじているや、としてなをのでする、をじてをめ、なをにしていくことがなにするとえられる。さらに、のは、の、のにじてわりるものである。のにたっては、がいの、、にするものとし、にがいのあるにしては、がいにえてであることもまえたがめられることにする。

なお、がいとのがにわたるには、そののとはに、するのをにれることにより、・なの・につながるはである。

３　のにたっては、において、のにするをとしているにあることを（をむ。）のほか、、、、、、のやりによる、による、がいがとをるにな（をするものをむ。）によりえられる。

また、がいからののみでなく、がいのによりのがなには、がいの、・、、をするがをしてうのもむ。

　　なお、のがながいが、、・、をっていないなど、のがないであっても、がいがのをとしていることがであるには、のにみれば、がいにしてとわれるをするためにをきかけるなど、なにめることがましい。

４　は、のがいのをしてにわれるの、の、のの「の」をとして、のがいにして、そのにじてにされるである。したがって、におけるののにより、のはなることとなる。また、がいのがすることもあるため、に、がいとの性がにわたるには、するについて、、しをうことがである。なお、のがいがしるをあらかじめするというから、のがいへのについてもしたのをうことや、・をにするから、のにするをに、やのののをることはである。

５　なのなえ

　なについては、なをせずになをするなどしてのをなうことなく、のごとに、のをし、やにじて・にすることがである。は、なにたるとしたは、がいににそのをするものとし、をるようめることがましい。そのにはのとおり、とがいのが、おいにのをしながら、をじてをり、のもめたをにすることがめられる。

* はへのの（はの、、をなうかか）
* の（・、・の）
* ・の

６　の

４でしたとおり、は、やにじてなり、かつのいものであるが、としては、のようなものがある。なお、したはあくまでもであり、ずするものではないこと、されているであってもにするものがあることにするがある。

（にたりるへのの）

* があるに、にげのをする、をすなどする。
* のいにかれたをってす。のをかりやすくえる。
* のまでののに、がいのにわせたでいたり、・・のりについて、がいのをいたりする。
* がいのにより、にのがあるに、のをにする。
* をじやすいがいからでののしがあった、のがであるに、がいにをし、のくにをさせてのをける。
* によりをさえることがしいがいにし、がをさえたり、のをしたりする。
* やがした、でのをくことがしいがいのあるにし、、きのをいて、わかりやすくしをる。
* においてがいのあるどもがやこだわりのあるをしてしまうに、からどものやのについてきったで、ちかないのときはにする。
* がいのあるからのをするようめがあったに、めにじてのをする。その、のがいるは、がいのに応じてのがする。

（にたりるの、びへのの）

* 、みげ、、、、によるのをいる。
* について、、でするに、のでがなりること、ではがないことにしてする。
* がいのあるにをする、みげにしたでする。
* がながいにし、をしてをする。
* などで、でうを、にをしてす。
* のに、をののでしたり、わかりやすいでしたりする。のがあるには、やといったをう。
* がながいにし、や、などをいずににする。
* がいからしがあったに、ゆっくり、に、りしし、がされたことをしながらする。また、なじみのないはける、はいない、は24ではなく・でするなどのをにいたを、にじてにす。

（・のなの）

* をつことがながいにし、ののをたで、きをれえる。
* ってにんでをっているに、ののをたで、がいのがるまでやをする。
* 、、がよくえるように、にいをする。
* をにいへする。
* にをすることがな、からのをめる。
* との、のにいることによるにより、がある、がいにの、がいのやのにじてをする。
* はをうにおいて、にるがられることをに、がいのあるのをするのをめる。

（そののにおけるましいの）

* のみのに、、のするのをき、そのにじて、がいのあるにし、なでのをう。
* のにたり、がいのあるにし、ゆっくり、なをがけるなどのをう。
* ので、にし、はとはがなり、がないことなどをし、をしたり、したりするには、をみげるなどがいのあるやにしてをうこと、のはをうこと、また、にができるように、ゆっくりと、かつ、はっきりとすることなどをめる。
* のやにたっては、がのがいのにったをう、なでのをう。たとえば、がいのあるにをするとともに、は、がにってをう。また、をするとともに、にができるように、にをする。

　また、のにするとえられるびしないとえられるとしては、のようなものがある。なお、されているはあくまでもであり、のにするかかについては、のごとに、のをまえてすることがであることにする。

（のにするとえられる）

* をけるにがなためのをめるしがあったに、のみをめたがないことをに、なを行うことなくにをること。
* のにしてをめるしがあったに、「かあったらる」というなでなのをせず、をること。
* がながいからのによりがえるようをめられたに、、はによるのみでとすることとされていることをとして、やをしたのをせずにをること。
* をとするがいから、のにたりのをめるしがあったに、がのみのをとしていることをとして、であるがいのやのをすることなく、にのをること。
* でのをしているにおいて、のがいからやがよくえるでのをするしがあったに、のなどのをせずに「いはできない」というでをること。

（のにしないとえられる）

* のとしてっていないのをめられたに、そのをること。（とされるでのにするものにられることの）
* みとなっているへのについて、みのをうことがであることをに、へのをにしておくようめられたに、をること。（がいでないとのにおいてののをけるためのものであることの）
* に、がいのあるからにし、をきってをってほしいまれたが、であり、できるがいないことからをること。（な（・の）の）

（がいについて）

　をめけには、「がい」にがにたるのか、としてどのようながましいのかなどについてなえやをしているので、されたい。

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |